

2016年度 瀬戸内海文化研究・活動支援助成
【C】犬島パフォーミングアーツ助成

犬島パフォーミングアーツ助成 採択結果のお知らせ

公益財団法人 福武財団は、2015年度から瀬戸内海文化研究・活動支援助成の新規プログラムとして「犬島パフォーミングアーツ助成」の公募を行いました。この度、2016年度の採択事業が決定いたしましたので、お知らせいたします。なお、この事業は、瀬戸内国際芸術祭2016の参加作品となります。

■採択事業

事業名：「Vessel」
団体名：SANDWICH.Inc

■選考事由

応募総数11件の内、選考委員会による選考を経て最終候補1件に絞り、具体的な計画についてヒヤリングを行い、その結果を踏まえ「Vessel」(SANDWICH.Inc)を採択いたしました。

要項に記載されている審査基準に従い、活動内容を通じて地域の既存価値が再考されているか、公演環境を勘案し実現性を伴った計画となっているかが選考の主な焦点となり、「Vessel」(SANDWICH.Inc)においては、民俗学など地域の多様性に関心のある海外の実力のある振付家の起用と、犬島公演の独自性に重点を置いた作品内容が期待を感じさせ、プラン、マネジメントなど提案に具体性が富んでいる。また、応募内容の中で犬島の将来像について言及しているなど、地域への理解に努めている点を評価し2016年度助成事業として採択いたしました。

■選考委員

委員長：北川フラム（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役会長、福武財団常任理事）

委員：久野敦子（公益財団法人セゾン文化財団 プログラムディレクター）

相馬千秋（特定非営利活動法人芸術公社 代表理事）

■Vessel 概要

ベルギーを拠点とするダンサー及び振付家、ダミアン・ジャレと彫刻家・名和晃平が、彫刻と身体に対するアプローチを共有しながら創作を進めてきた「Vessel」は、パフォーマンスとインスタレーションが一体となり、身体と彫刻、液体と固体、エロスとタナトスなど、曖昧な境界を探る作品です。フランスの思想家ジョルジュ・バタイユがオーガナイズした「アセファル（無頭人）」を彷彿とさせるダンサーが生命体の根源を探し求めながら、パフォーマンス全体は自然の流れと一体となり、生命体のムーブメントとしてダイナミックな空間を観るものにあたえます。（申請書類より抜粋）

舞台美術：名和晃平

振付け：ダミアン・ジャレ 他

犬島パフォーミングアーツ助成について

公益財団法人 福武財団は、2015年度から瀬戸内海文化研究・活動支援助成の新規プログラムとして「犬島パフォーミングアーツ助成」の公募を開始しました。

これは、瀬戸内海地域、特に岡山県・犬島の「文化力」向上のためのパフォーミングアーツを主体とした芸術・文化創造活動に助成をするものです。

プログラムの公募にあたっては、2015年8月1日(土)、犬島において現地見学会・説明会を行いました。

なお、瀬戸内海文化研究・活動支援助成では、【A】調査・研究助成 【B】活動助成も行っており、それぞれ2016年度の助成先が今後決定されます。詳しくは、WEBサイトをご覧ください。

公益財団法人 福武財団 WEBサイトアドレス : <http://www.fukutake.or.jp/art/>

犬島について

犬島(いぬじま)は、岡山市東区西大寺の南東部にある岡山市唯一の有人島です。古くから「犬島みかげ」とよばれる花崗岩の産地として知られ、かつては大坂城築城、明治時代以降の大阪港築港の礎石の切り出し場として栄えていました。

ベネッセアートサイト直島では、20世紀初頭に操業していた銅製錬所の遺構を保存・再生させた「犬島精錬所美術館」を2008年より運営しています。「在るものを活かし、無いものを創る」というコンセプトのもと、「遺産、建築、アート、環境」による新たな地域創造のモデルとして、循環型社会を意識したプロジェクトです。さらに、2010年には第1回の瀬戸内国際芸術祭の開催と同時に、アーティスティックディレクター 長谷川祐子、建築家 妹島和世による犬島の集落で展開する犬島「家プロジェクト」をスタートさせ、芸術文化による地域のさらなる活性化を図っています。



犬島精錬所美術館 Photo: Daici Ano



犬島「家プロジェクト」S邸、A邸 Photo: Osawa Seiichi